

平成28年度第6回経営協議会議事要録

日 時 : 平成28年11月10日(木) 14:48 ~ 16:30

場 所 : 大会議室

出席者 : 原田 信志、古島 幹雄、松本 泰道、山崎 広道、竹屋 元裕、西川 泉、
松原 弘信、西村 泰治、水田 博志、郷 通子、崎元 達郎、田川 憲生、
田嶋 徹、芳賀 義雄、福島 絵美、二塚 信、星子 邦子、吉丸 良治

欠席者 : 市川 聡夫、甲斐 隆博、桑野 幸徳

陪 席 : 浅井 裕、鶴田 哲三、山縣 ゆり子

議 題

1. 平成28年人事院勧告等に伴う役職員の給与等の取扱いについて

議長から、平成28年人事院勧告は、勧告どおり実施される見込みである旨説明があり、引き続き山崎理事及び事務部から、資料1に基づき、人事院勧告の概要及び本学における検討状況等について説明があった。

次いで議長から、本学の役職員の給与水準については、人事院勧告を重要な参考資料として対処することが適当であるが、熊本地震により国家公務員と熊本県における取扱いに違いが生じていること、また、本学の財政状況等を踏まえ、引き続き検討する旨提案があり、審議の結果、了承された。

報告連絡

1. 寄附講座の一部変更(寄附者の追加)について

議長から、資料2に基づき、次のとおり寄附講座の設置内容を一部変更することとなった旨報告があった。

○大学院生命科学研究部「免疫・アレルギー・血管病態学寄附講座」

平成28年4月1日から

・寄附者として、まるお皮ふ科(総額1,250万円)の追加

2. 平成27年度に係る業務の実績に関する評価結果(原案)について

議長から、平成27年度に係る業務の実績について、10月13日付けで国立大学法人評価委員会から評価結果(原案)の通知があった旨報告があった。

次いで竹屋理事から、資料3に基づき、評価結果(原案)の概要について説明があった。

なお、議長から、第2期中期目標期間の業務実績評価は平成29年5月頃に公表される予定である旨付言があった。

3. 平成27事業年度財務諸表の承認について

議長から、平成27事業年度財務諸表について、6月28日付けで文部科学大臣から承認された旨報告があった。

次いで事務部から、資料4-1～4-3に基づき、各財務指標の分析結果等について説明があった。

4. 熊本大学AO入試（グローバルリーダーコース）について

議長及び古島理事から、資料5に基づき、今年度から開始したグローバル人材養成を目的とした新たな入試である熊本大学AO入試（グローバルリーダーコース）について報告があった。

（意見交換の概要は次のとおり。◇は委員からの質問・意見、◆はそれに対する回答等）

- ◇ S G H（スーパーグローバルハイスクール）指定校出身者の合格者が少ないが、どのような理由が考えられるか。
- ◆ 広報不足が考えられる。来年は、本コースの特色等を積極的に周知していきたい。
- ◇ 女子の合格者が多いが、その理由は何だろうか。
- ◆ 本試験の選抜方法として実施した面接とグループワークでは、一般的には女子が得意とする傾向にあるが、そのことが要因として考えられる。

意見交換

1. 熊本大学と地域との関わりについて ～熊本大学復興プロジェクトの進捗状況

議長から、「平成28年（2016年）熊本地震」に係る災害復旧予算、施設・設備関係の復旧の進捗状況等について説明があり、引き続き松本理事から、資料6に基づき、熊本復興支援プロジェクトの取組状況について説明があり、種々意見交換が行われた。

（意見交換の概要は次のとおり。◇は委員からの質問・意見、◆はそれに対する回答等）

- ◇ 熊本城等の文化財の復旧復興に関しても、熊本大学から積極的に協力いただき心強い。熊本城の復旧は熊本県民の悲願なので、一般市民、経済界、大学が一丸となって復旧に取り組んでほしい。
- ◇ 熊本市の東側に隣接する町村の被害が大きかったが、将来的に発展性が非常に高い地域なので、熊本空港及びその周辺地域の今後の復興計画については、主導的に提案をお願いしたい。
- ◇ 熊本大学には、県内各地で復興に尽力いただいている。企業、大学、県民が一丸となって取り組んでいかないと復興できない状況なので、大学にはリーダー的な役割と対外的なアピールを期待している。
- ◇ 行政と地域住民との間に大学が関与することで、住民の意向をきめ細かく反映することができた。仮設住宅や住民生活の質の向上等についても、行政と大学が連携して対応することが望ましい。
- ◇ 復旧に係る大学の様々な活動を県内外の人達にも、積極的に広報をしてもらいたい。
- ◆ 地震だけではなく、本学の様々な活動や取り組みを学長が率先して広報すべきと感じている。
- ◇ 地震の際、他大学との連携はあったのか。
- ◆ 地震後、県内の大学の学長等が集まり対応を検討したが、設置主体が異なるため、協同での

取り組みは難しく、また、現実的には自大学の対応で精一杯であった。

- ◆ 復興には財源が必要であり、様々なところに支援を働きかけている。また、震災の報告は、体験談ではなく、外部からの客観的データに訴求力があるとも思われる。今後は、熊本だけではなく、東京での情報発信も企画していきたい。

以 上

○ 次回開催：平成29年1月12日（木）13時30分から

<配布資料>

- 資料 1 給与勧告の骨子
- 資料 2 寄附講座の一部変更について
- 資料 3 平成27年度に係る業務の実績に関する評価結果（原案）について ほか
- 資料 4-1 平成27事業年度財務諸表の承認について（通知）
- 資料 4-2 熊本大学の財務分析（財務指標の推移）
- 資料 4-3 財務レポート（平成27事業年度）
- 資料 5 熊本大学AO入試（グローバルリーダーコース）について
- 資料 6 熊本復興支援プロジェクト始動